（別紙４）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2970800344		
法人名	社会福祉法人　三寿福祉会		
事業所名	グループホーム友楽苑		
所在地	奈良県御所市重阪771－3		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	平成22年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302－1　奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成22年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念に掲げている「家庭的な雰囲気の中」と言う一つに館内全体が木をふんだんに使用し、木のぬくもり、自然を身体全体で感じられる事も高齢者にとって安心感の一つです。その様な環境のもと、私達職員は一緒に生活を共にする家族の一員である事と、また喜怒哀楽を一緒に感じる事を理解しながら、個々のケアにあたっています。「できないこと」「わからないこと」にめを向けず、「できること、できそうなこと」「わかること、わかりそうなこと」に目線を置き、個々の利用者の持っている隠された力を発揮できる環境を提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

金剛山のふもと自然豊かな山間部に、在宅複合施設の一つとして開設されたグループホームです。「ゆったりとした時間」「一人一人の生活リズム」「ごく普通の生活」「地域住民とのふれあい関わり合い」を理念のポイントに掲げ、一人ひとりの生活歴、性格、思いを把握し、毎日笑って過ごすためのケアとはどのような暮らしかを、職員一同は、本人の立場に立って、常に追求されています。実際、ケアはきめ細かく、とりわけ、一人ひとりの生活歴を活かした支援や夫々の能力に応じた役割、楽しみごとの支援、さらには、ホームの内外は、新しく清潔感にあふれ、各所にバリアフリーが施されていると共に、木のぬくもりが感じられるよう随所に木が多用され、居間には丸窓や紙障子・広い廊下・要所要所に花が生けられている等生活感や五感刺激及び入居者の動線に配慮した機能的な設えの建物等様々な工夫や配慮が見られます。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

（セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に理念を掲げており、職員全員で決まった時間に読み上げ、共有と実践を行っている。	地域の人々との関わりを重視した理念とされています。職員は毎朝理念を唱和し、共有されています。	理念は、サービスを提供する上での拠り所ですから、今後は、さらに実践につながるよう、日々のサービスの提供場面を振り返り、理念をケアに反映されているかを確認する等の取り組みが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出支援の機会を有効活用し、利用者のなじみのある場での生活を確保している。	立地上の制約から、その実現は困難ではあるが、必要性を認識し、できる限り買い物等に出かける等交流の機会をつくるよう努力されています。	暮らしとはホームの中だけで完結するものではなく、地域との相互関係の下に成り立っていますので、今後より一層、入居者が地域で暮らし続けるための基盤づくりや地域の一員としての取り組みを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は薄いが、家族同士の交流の場を設け、認知症への理解を深めていっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、家族様代表の都合で行なえるきかいが少なかった。	関係者の日程調整がつかない等の理由から実施されていません。	運営推進会議は、外部の人々の目を通してホームの取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会ですから、参加者への働きかけを工夫する等速やかな実施が望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度の運営推進会議の開催が無く、密な連携は行なえなかった。しかしそれ以外でも現状の報告や相談を行ないながら関係を保てるよう努力していかなければならない。	現状の報告や相談を行ないながら関係を保てるよう努められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を通じて、身体拘束撲滅へ取り組んでいる。また緊急やむを得ない場合は家族と十分な話し合いを持ち、許可を得て又、利用者の心身の状態の把握に努めている。	全ての職員は、身体拘束の弊害を正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組まれています。日中玄関は施錠することなく開放されています。緊急やむを得ず、家族の同意を得て身体拘束に至るケースもありますが、見守りを徹底する等して常態化することなく限定的なものとなるよう努められています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会を通じて、虐待防止に努めている。また職員の申し送りを徹底し、利用者の心身の変化に迅速な対応を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ必要とされる利用者は居ないが、今後この様なケースになった場合でも、スムーズに対応できるように、研修会や勉強会の機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	入所前から話し合いの機会を持ち、安心して入所できるように、対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には、何でも話して頂ける様に、こちらからの言葉掛けを行っている。また要望等についてはできる限り反映できるように取り組んでいる。	手紙や訪問時、家族会等で常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意されています。出された意見、要望等は検討し反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回は全体会議を開催し、グループホームの質の向上に向けて、意見交換を行っている。	毎月1回全体会議を開催し、意見交換が行なわれています。	サービスの質の確保の核心の一つは、入居者と職員の馴染みの関係づくりにありますので、今後は更なるサービスの質の向上を目指し、馴染みの関係を保つことを重視し、職員の勤務体制や配置異動を検討されるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	職員個々の勤務条件を把握し、仕事に対する意欲向上を持てる環境を創っている。また資格取得に向けた勉強会も開催し、実績に繋げていっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て、毎月1回以上の勉強会を行っている。また力量や向上心のある職員には、随時外部研修を受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度、五條市グループホーム連絡会を開催し、意見交換･事例研修等を行い、勉強会を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所までに家族との話し合いの場を持ち、利用者の快･不快等聴取し、混乱無く、入所できる環境を整備している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時には家族の主訴を取り入れ、利用者のみならず、家族の思いも盛り込み作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状はグループホーム入所希望者の方として対応しているため、特に他のサービスの必要性と支援策の話し合いは持っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に「家族の様な関係」を意識し、利用者の暮らしてきた延長を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	疎遠にならない様に、家族参加型の行事を開催し一緒に支える事を理解している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの馴染みの関係の継続に加えながら、現在の生活の場での馴染みの関係を構築している。	地域に暮らす馴染みの友人が訪問される等支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動や食事時間等を利用し、利用者同士が自然な形で寄り添えるように、また自分の時間も大切に過ごして頂ける様、側面的な支援を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホーム退所後併設施設を利用されている利用者については、訪問し懐かしさを感じて頂いている。他施設に入所された方についても今後は訪問を検討していく。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の暮らし方に添えるように支援している。またケース会議を開催し、本人の思いや願いに添えられるようにアセスメントを立てていっている。	日々のかかわりの中で、声を掛け、把握し、言葉や表情などからその意思を推し測ったり、それとなく確認するようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想法を用いて、利用者から情報を得たり、本人から聞き取りが困難な場合は家族から情報を頂き、これからの生活に生かせるように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者の生活リズムや日課への取り組みに努めている。趣味や特技を最大限に生かせるように環境への配慮も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ケア方針を記入していることで、状態の変化が見える。またそれにより、再アセスメントを行ないながら、本人の達成感へとつなげている。	アセスメントや、日々の記録を基にモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成されています。	介護計画は、本人がよりよく暮らすための課題やケアの在り方について、本人や関係者が気付きや意見・アイディアを出し合い、話し合った結果を基に作成することが望まれます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態・様子を詳細に個別記録し各項目では医務・相談・連絡事項を作り介護計画の改善・気付きへと反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りその時々に応じたニーズを聴き取っている。具体的には法人内の協力を得て併設施設での行事・ボランティア訪問・介護教室の参加などで普段とは違った外部交流を取っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理解･把握は十分にできているが現状としては運営推進会議での議案としてとまっており実践にまでは至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人、家族の意思決定を第一にかかりつけ医を選び受診への形を取り、かかりつけ医との連絡の密接で関係を良好に築いている。	本人や家族の希望するかかりつけ医とされています。基本的には家族の同行の受診となっていますが、普段の様子や変化を伝え情報提供する等支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師に随時相談し医療面でのサポートを助言、訪問による適切な治療を行い利用者本位の介護、看護を充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は面会に行き、病院の看護師及び相談員との情報交換を密に行い、退院後も混乱無く生活できる様に、支援策や今必要な事項を検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人との十分な話し合いまでには至っていないが、出来る限り、家族、本人の要望に添えられるように取り組んでいきたい。また職員も同じ生活を過ごしてきた家族として終末期ケアについての理解を深めてほしい。	現在のところ、ホームの力量や体制が十分整っていないことから、入居時にホームが対応し得る最大のケアについて、説明し納得を得るようにされています。	重度化の対応は、本人や家族等の大きな関心と不安の一つであり、管理者自ら実施に向けて熱意が見られることから、入居者や家族のニーズをくみ取りながら速やかに体制を整えられるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練を通じて、応急手当の方法を教わり、また事故発生時の対応として、研修会を開催しているが、実践研修まで行っていないので早急に開催していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の中で、消防団員から直接指導を頂いている。また職員間でも日頃から環境整備に取り組み、混乱の軽減に努めている。	消防署の協力を得て年2回訓練（夜間を想定した訓練も含む）を実施されています。ホームの職員はもとより同法人の近隣施設の職員の協力体制も確保されています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けには細心の注意を払い、利用者を敬う気持ちを忘れず対応している。利用者の馴染みのある言葉であっても、敬う気持ちは忘れないようにしている。	常に言葉掛けやケアには本人の尊厳を傷つけないよう細心の注意を払い対応されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの様な場面でも、選択肢を設け、自己決定できる支援を取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の部分から自分の時間を過ごして頂ける様に、その人に合った日々を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分らしく送れるスタートとして、個々の着たい服を着用して頂いている。また、レクリエーションに美容を取り入れ、オシャレを楽しんで頂ける場を設けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食時職員と一緒に食事を楽しみながら摂っている。個々に合った食事形態にし、食べやすい工夫を行っている。準備や後片付けも役割を持つ事で活き活きさが出てきている。	調理、準備、盛り付け、片付け等入居者と共に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切にされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事の摂取量、水分量を記録し栄養面でのバランスを確認している。食欲をそそるような、盛り付けや、食器にも工夫を凝らし、目で楽しむことにも心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けと支援を行っている。義歯の不具合や歯の痛み等には早期治療を行い、体調面での安定を図っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをキャッチし、羞恥心に配慮した声掛けを行ないながら、排泄誘導を行っている。	排泄表を使用し、時間を見計らって誘導しトイレで排泄できるよう支援されています。確認や誘導はあからさまではなく羞恥心に配慮した支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取量を記録することで、便秘予防に取り組んでいる。適度な運動やマッサージをする事で、自然排便を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自宅と同じようにいつでも入浴できるようにしている。入浴拒否が見られた場合でも、強制的なことは行わず、本氏の状態を最優先し支援している。	本人の意向に沿っていつでも入浴できるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は各利用者のリズムに合わせている。また日中も休息の時間を設け、本氏の生活リズムを尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員で行っている。各職員が確認印を押し、誤飲、誤薬がない様に徹底している。また主治医との密な連絡をとり、体調管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でも個々の役割から達成に取り組めるように支援している。責任感の持てる、張りのある生活を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は定期的に行っているが、現状は近隣のみである。利用者の希望や馴染みの場所に行ける機会を増やしていきたいと思う。	外出は、気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として、近隣での散歩にとどまっています。	今後はさらに、入居者が生き生きと過ごせるよう、これまでの生活の継続としての外出や、個別の外出の支援に取り組んでいくことが望まれます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則は職員で金銭管理を行っているが、外出支援の際には、利用者にお渡しし、いつでも使用できるようにしている。自分のほしい物を、自分で購入できる喜びを持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に添えられるよう、電話を通じて家族との絆を深めて頂けるように、支援している。手紙のやり取りは無いが、毎月近況報告を送らせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の壁画を利用者と共に作成し、玄関先、廊下に装飾している。	バリアフリーで、木のぬくもりが感じられるよう随所に木が多用されています。また、居間には丸窓や紙障子を設える他、明るく清潔感にあふれ、廊下が広く要所要所に花が生けられている等入居者の五感刺激や動線に配慮し、居心地良く過ごせるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者が思い思いに過ごして頂ける様に十分な空間を創っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所までは、家族との相談を行ないながら、住み慣れた環境に近い状態を創っている。馴染みのある物は必ず持参して頂く様にしている。	写真や思い出の品々が持ち込まれ、それぞれの入居者が居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広々とした廊下を活用し、生活リハビリを実践している。また作品を展示することで、自身の達成感に繋がっている。		